

(別紙1)



JKA補助事業完了報告書

実施期間 平成30年6月7日—平成31年2月8日

作成 特定非営利活動法人パラキャン

(別紙 1)

(別紙1)

事業の実施内容及び成果に関する報告書

1 事業名 平成30年度子どもが幸せに暮らせる社会を作る補助事業

2 実施経過

(1) 事務手続き関係

平成30年	4月01日	補助金交付決定通知 (30JKA公福第1号-4月1日付)
	4月01日	事業開始
	4月19日	補助金交付申請書 (30パ事発第005号) 提出
	10月17日	競輪公益資金による補助事業の状況に関する報告書 (30パ事発第129号)
平成31年	3月8日	補助金の精算払申請 (30パ事発第259号) 提出
	3月22日	補助金受領 (4,650,643円)

(2) 事業関係

1)	平成30年6月07日	ノートルダム女学院中学校
2)	6月08日	羽曳野市立白鳥小学校
3)	6月09日	河内長野市立天野小学校
4)	6月12日	柏市立柏第八小学校
5)	6月14日	柏市立西原小学校
6)	7月10日	堺市立鳳中学校
7)	7月17日	大和市立大和小学校
8)	7月29日	池田市イベント (池田市五月山体育館)
9)	9月01日	京都車いすバスケットボール体験・交流会 (上賀茂小学校)
10)	9月14日	日の出町立平井小学校
11)	10月02日	練馬区練馬小学校
12)	10月19日	柏市立柏第五小学校
13)	10月29日	品川区立中延小学校
14)	11月06日	堺市立登美丘中学校
15)	11月09日	江戸川区立篠崎第二中学校
16)	11月13日	柏市立柏第三小学校
17)	11月16日	貝塚市立第一中学校

(別紙 1)

- | | | |
|-----|--------|-------------|
| 18) | 12月02日 | 大分県別府市イベント |
| 19) | 12月11日 | 目黒区菅刈小学校 |
| 20) | 12月13日 | 町田市立山崎中学校 |
| 21) | 12月16日 | 大阪府PTA協議会 |
| 22) | 2月06日 | 品川区立御殿山小学校 |
| 23) | 2月08日 | 町田市立小山ヶ丘小学校 |

(別紙1)

3 実施内容及び成果

事業開始1～2時間前に会場へ機材運搬

講師集合

打合せ

児童・生徒体育館に集合

趣旨説明

講師自己紹介(氏名・年齢・出身地・障がいを負った経緯・スポーツと出会ったきっかけ等)

競技ルール説明

デモンストレーション(教職員を交えてのスポーツ体験)

ワークショップ(用具の工夫発見・説明・障がい者に対する意識など)

子ども達の体験

小グループでの質疑

まとめの話

1) 開催日	6月7日
開催場所	ノートルダム女学院中学校
住所	京都府京都市左京区鹿ヶ谷桜谷町110
電話	075-771-0570
参加人数	子ども82人
ファシリテーター	諸隈有一
講師	阪根泰子、永易雄
時間	会場集合 12:20 開始 13:10 終了 15:10 撤収 15:30

反応 生徒達が、非常に積極的にかかわっていたのが印象的だった。「障がいを負った後にどう立ち直ったか?」という質問があり、障がいを負ったら、落ち込むものと決めていたのが、実際に講師達との会話の中で、「障がいを負って良かったと思っている、そのことで世界が広がった。」との講師からの返答が、おそらく生徒達の「障がい者」に対する意識が変わったと感じた。

特記事項 特になし
アンケート あり
これから先の進路を考える生徒達に大変いい経験になったと思います。障がい=挫折、という意識も薄れたと思います。良い、事業を本当にありがとうございました。

(別紙1)

- 2) 開催日 6月8日
開催場所 羽曳野市立白鳥小学校
住所 大阪府羽曳野市白鳥3-8-17
電話 072-958-3341
参加人数 子ども 155人
ファシリテーター 諸熊有一
講師 吉田高志、永易雄
時間 会場集合 12:40
開始 13:40
終了 15:40
撤収 16:00
- 反応 デモゲームに先生にも参加していただいたところ、先生の失敗を子ども達が大いに喜び、そこから子ども達の参加する姿勢が大きく変わった。先生も生徒も、同じ立場でこの事業に参加できることが、良かったとのご意見を頂いた。
- 特記事項 PTAの参加あり
アンケート あり
スポーツを通してもっと色々なことを感じて欲しい。もっと時間があればよかったと思う。
- 3) 開催日 6月9日
開催場所 河内長野市立天野小学校
住所 大阪府河内長野市下里町365
電話 0721-52-2528
参加人数 子ども 174人
ファシリテーター 諸隈有一
講師 吉川弘一、永易雄
時間 会場集合 08:20
開始 09:20
終了 11:15
撤収 12:30
- 反応 誰とでも遊べる方法として「風船バレーボール」を今回は取り入れたところ、子ども達が大いに楽しみながら参加していた。ルールは理解できていても、ルール通りには対応できず、皆で一斉に風船を追いかける「風船追いかけっこ」に変化してしまったが、講師達が積極的に関わって、どんどんルールを変更しながら行ったことで、低年齢のこともたちが最後まで飽きずに参加できたと感じた。
- 特記事項 とくになし
アンケート あり
子ども達が興味を持ちながらも、疑問に思ったことを素直に質問できていたし、勉強になったと思います。貴重な体験でした。

(別紙1)

- 4) 開催日 6月12日
開催場所 柏市立柏第八小学校
住所 柏市永楽台2-8-1
電話 04-7164-1207
参加人数 子ども 252人
ファシリテーター 高橋剛志
講師 一橋卓巳、菅野元輝、松井昭二
時間 会場集合 07:35
開始 08:35
終了 10:25
撤収 11:35
- 反応 子ども達が、楽しみにしていたようで、体育館のそばで待機して
いて搬入を手伝ってくれた。オリンピック・パラリンピックに対する意識は高いようで、色々
なスポーツについての質問も多く出ていた。
- 特記事項 教育委員会視察あり
アンケート あり
子ども達が車いすやパラスポーツと触れ合う機会は少なく、とても
貴重な体験だった。
パラスポーツに関心を持つきっかけとなると同時に、障がいを持つ人
と自分たちが同じであると考えきっかけにもなったと思う。教師で
ある自分も楽しく貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。
- 5) 開催日 6月14日
開催場所 柏市立西原小学校
住所 柏市西原4-17-1
電話 04-7152-3557
参加人数 子ども 221人
ファシリテーター 高橋剛志
講師 一橋卓巳、菅野元輝、松井昭二
時間 会場集合 07:40
開始 08:40
終了 10:20
撤収 11:30
- 反応 バasketをやっている子どもも多かったためか、先生を含めての
デモンストレーションや体験の部分では大いに関心を持たせること
が出来ました。その流れで、車いすの工夫や様々な話を持っていくた
ので、色々な人がいて社会であることや工夫することの大切さを理
解していたように見受けられました。
- 特記事項 なし

(別紙1)

アンケート あり
普段のバスケットとは違った角度からバスケットを見ることが出来、とても勉強になったと思います。児童がとても興味を持ち、現実味があり、貴重な体験でした。車いすの方に今後、目が向いて生活できそうな感想を持っていました。

6) 開催日 7月10日
開催場所 堺市鳳中学校
住所 堺市西区鳳西町1-159-1
電話 072-265-1441
参加人数 子ども 825人
ファシリテーター 諸隈有一
講師 永易雄、平田博之、吉川弘一
時間 会場集合 08:00
開始 09:00
終了 11:00
撤収 11:30

反応 中学生ともなると、排泄のことなども気になるころではあるが、なかなか聞けなかったところ、講師の方から話を持ち出し、「時間で行く」「体に反応が出る」等の説明を受けていました。なぜ、障がい者用のトイレが広く作られているか、乗り移りに必要なことや健常者ほど我慢できないことなど、「みんなのトイレ」に対する考え方も話に上がり、真剣に聞いている姿が印象的でした。

特記事項 保護者の見学あり
アンケート あり
日常生活の中で接点の少ない人たちと関わることが出来大変良かったと思います。多様な性の理解という面でも大変勉強になりました。今回の訪問事業で価値観が変わった生徒が多くいました。お忙しい中ありがとうございました。また機会がありましたらよろしく願いいたします。

7) 開催日 7月17日
開催場所 大和市立大和小学校
住所 大和市深見西8-7-1
電話 046-261-0795
参加人数 子ども 195人
ファシリテーター 高橋剛志
講師 松井昭二、中村恵美子、山崎英樹
時間 会場集合 08:00
開始 09:00
終了 11:00
撤収 11:20

反応 好きな食べ物が「焼き肉」であることで講師達と子ども達が大いに

(別紙1)

盛り上がり、障がいの有無に関わらず、好き嫌いもあるし自分たちと変わらないということを実感していたようでした。誰もが違っているが、同じ人間であり一緒に生きている地域の仲間であることが伝わったと感じました。

特記事項
アンケート

なし
あり
車いすに乗せてもらったり、一緒にバスケットをしたり、車いすにのられたり、とても良い2時間になった。車いすの方たちが、生き生きと楽しくしている姿がとても良かった。
障がいの有る人との距離が縮まったと思った。スポーツを通して子ども達に彼らが出来ることを伝えてくれた。子ども達も楽しみながらも沢山のことを感じ取ってくれたと思う。ありがとうございました。

8) 開催日 7月29日
開催場所 五月山体育館
住所 池田市綾羽2丁目7番1号
電話 072-754-3336
参加人数 子ども178人
ファシリテーター 諸隈有一
講師 阪根泰子、吉川弘一
時間 会場集合 11:00
受付開始 12:00
体験開始 13:00
終了 16:00
撤収 16:30

反 応 大きなイベントの中の一部として、車いすバスケットボールの体験を行った。参加者は時間になると場所を移動してくるため、システムティックに説明をして、体験をさせ、質問を聞く、ということを行ったが、何人もの参加者が、大人も子どもも戻ってきては講師達と話していて、意味のある時間が持てたのだと感じた。

特記事項
アンケート

市長、教育長、教育委員会の方たちの視察・体験あり。
大変良い時間を作って頂けて感謝しております。年齢の幅の広い沢山の人を対象に行ったもので、事前申し込みに関わらず参加者が突然現れたり、来なかったりと大変な中やって頂けたと思います。講師の皆さんも、大変気持ちよく参加者を盛り上げてくださり、最後に全体へ「パラリンピックの意味」をお話しいただき、スポーツイベントの意味を深めて頂いたと感じました。

9) 開催日 9月1日
開催場所 京都市立上賀茂小学校
住所 京都市北区上賀茂鳥帽子ヶ垣内町1
電話 090-3623-5842
参加人数 子ども100人
ファシリテーター 諸隈有一

(別紙1)

講 師 阪根泰子、吉川弘一、
時 間 会場集合 10:00
受付開始 12:00
体験開始 13:00
終了 15:00
撤収 16:30

反 応 応援合戦をするなど、子どもたちなりに工夫して楽しんでいた。
特 記 事 項 保護者の参加あり。
アンケート あり
めったにできない体験がさせられ大変良かった。様々なことを体験できる機会を届け続けて欲しいです。

10) 開 催 日 9月14日
開 催 場 所 日の出町立平井小学校
住 所 東京都西多摩郡日の出町平井1218
電 話 042-597-0044
参 加 人 数 子ども 62 人
ファシリテーター 高橋剛志
講 師 森田俊光、松井昭二、山崎英樹
時 間 会場集合 09:35
開始 10:35
終了 12:10
撤収 12:45

反 応 自分の意見を持っている子どもが多いように見受けられました。こちらの問いかけに対し、全く臆することなく発言をしてきたため、議論としては深まりました。
特 記 事 項 校長先生が、最後まで一緒にいてくださり子ども達とも楽しく参加されていました。
アンケート あり
全員参加でき、車いすスポーツの仕組み、どんなことでも平等に参加できるなど大切なことを学ぶことが出来ました。子ども達はどの活動も生き生きと取り組んでいましたありがとうございました。

11) 開 催 日 10月02日
開 催 場 所 練馬区立練馬小学校
住 所 練馬区春日町6-11-36
電 話 03-3990-4244
参 加 人 数 127 名 (5, 6 年)
ファシリテーター 高橋剛志
講 師 山崎英樹、石井康二
時 間 09:45 会場集合
10:45 開始

(別紙1)

	12:45 終了
	13:45 撤収
反 応	積極的に参加できる体制が出来上がっていました。質問も積極的にしているようでした。
特 記 事 項	学校新聞取材あり
アンケート	あり
12) 開 催 日	10月19日
開 催 場 所	柏市立柏第五小学校
住 所	柏市柏932-7
電 話	04-7164-1585
参 加 人 数	340名(5~6年生)
ファシリテーター	高橋剛志
講 師	石井康二、一橋卓巳、
時 間	07:45 会場集合
	08:45 開始
	12:45 終了
	13:45 撤収
反 応	「つまらない質問はない」ということを事前に言っておいたので、質問は沢山出ていました。また講師の家族や家族とのかかわりについて興味を持った児童が多かったようで、家庭での姿を質問している児童が多くいました。スポーツのことに興味を持つのも
特 記 事 項	事前・事後の指導案も活用して頂けていて、児童が体験したことを知識から知恵にしていくための工夫をされているように見受けられました。
アンケート	あり 教室での事業を展開して頂けたらなあと思いました。
13) 開 催 日	10月29日
開 催 場 所	品川区立中延小学校
住 所	品川区中延1-11-15
電 話	03-3781-4016
参 加 人 数	126名(全学年11クラス)
ファシリテーター	高橋剛志
講 師	石井康二、一橋卓巳
時 間	07:50 会場集合
	08:50 開始
	10:50 終了
	11:50 撤収

(別紙1)

- | | |
|---------|---|
| 反 応 | 風船バレーボール、車いすで鬼ごっこ、車いすバスケットボール、そしてリレーと4種目を用いたことで、児童は障がいがあってもスポーツを楽しむことが可能であることを理解しました。 |
| 特 記 事 項 | 障がい児の多い学校の為、待たせる時間が無いよう、同じことが長くならないように、進め方に注意しました。 |
| アンケート | なし |
- 14) 開 催 日 11月06日
- 開 催 場 所 堺市立登美丘中学校
- 住 所 堺市東区高松408番地
- 電 話 072-236-2426
- 参 加 人 数 482名(2学年12クラス)
- ファシリテーター 諸隈有一
- 講 師 川合洋人、永易雄、
- 時 間 09:50 会場集合
10:50 開始
12:50 終了
13:50 撤収
- | | |
|---------|---|
| 反 応 | アンプティサッカーの体験は、当初、教職員にお願いしようと考えていたが、生徒達に尋ねたところ積極的に参加してくれて、大変面白い体験となりました。楽しいだけでなく、障がい者スポーツの面白さと競技性の高さを理解してもらえたと思いました。 |
| 特 記 事 項 | 特になし |
| アンケート | あり
純粋に大人が目標に向かって楽しんでいる、頑張っているさまが伝わったように思う。
障がいについての考え方が変わった生徒が沢山いたように感じる事が出来ました。 |
- 15) 開 催 日 11月09日
- 開 催 場 所 江戸川区立篠崎第二中学校
- 住 所 江戸川区下篠崎町14-1
- 電 話 03-3677-9531
- 参 加 人 数 580名(全学年16クラス)
- ファシリテーター 高橋剛志
- 講 師 松井昭二、石井康二、
- 時 間 12:30 会場集合
13:30 開始
15:30 終了

(別紙 1)

	16:30 撤収
反 応	「障がいとは何か?」「障がいとは、体に不具合の有ることではなく、そのことによって生じる生活上の不便さであり、それは町が整備されればクリアできる問題の場合が多いという部分で、中学生の意識が変わったように感じられました。真剣に聞いてもらえたと思います。
特 記 事 項	来年度の申し込みを頂きました。
アンケート	なし
16) 開 催 日	11月13日
開 催 場 所	柏市立柏第三小学校
住 所	柏市若葉町4番54号
電 話	04-7167-3161
参 加 人 数	493名 (4年~6年 15クラス)
ファシリテーター	高橋剛志
講 師	石井康二、関根直樹
時 間	07:40 会場集合 08:40 開始 15:20 終了 16:20 撤収
反 応	非常に熱心に参加してもらえたと感じました。車いすの児童がいることも有り、児童は車いすでもできるスポーツに大変関心を持っていました。
特 記 事 項	先天障がいの車いす児童 1名あり。講師と排泄や入浴のことを障がいの先輩から説明を受け、一人で色々出来る自信がついたとのことでした。
アンケート	あり 子ども達の関心が非常に高まった。 メッセージ性があり児童が前のめりになって取り組んでいる姿がとても良かった。楽しいだけでなく、考え方などに触れて下さり良い経験になりました。等
17) 開 催 日	11月16日
開 催 場 所	貝塚市立第一中学校
住 所	貝塚市加神1-5-1
電 話	072-422-1527
参 加 人 数	304名 (2学年 8クラス)
ファシリテーター	諸熊有一

(別紙1)

講師 時間	吉川弘一、永易雄、 08:40 会場集合 09:40 開始 11:40 終了 12:40 撤収
反応	先生達も楽しもうという気持ちがあり、それが全体の士気に影響したと考えます。
特記事項 アンケート	PTAの取材あり。 あり 頭で理解することと実際に体験するのでは全然違った。実際の経験を聞いて良かった。等
18) 開催日	12月02日
開催場所	大分県別府市イベント
住所	別府市鶴見4310-2
電話	0977-21-9093
参加人数	80名(子ども～大人)
ファシリテーター	諸隈有一
講師 時間	杉尾良一、伊東順一郎、渡辺祐一 09:00 会場集合 10:00 開始 12:00 終了 13:00 撤収
反応	
特記事項 アンケート	大分合同新聞社取材あり、記事掲載あり あり 広く障がい者スポーツの普及が出来る素晴らしい内容だった。 体験した子供たちの笑顔がとても良かったです。
19) 開催日	12月11日
開催場所	目黒区立菅刈小学校
住所	目黒区青葉台3-3-26
電話	03-3461-2569
参加人数	92名(2学年3クラス)
ファシリテーター	高橋剛志
講師 時間	松井昭二、石井康二 07:50 会場集合 08:50 開始 10:50 終了

(別紙1)

反 応	11:50 撤収
特 記 事 項	子ども達が、プログラムのどの部分でも一生懸命勉強する姿勢があり、パラ教育に対する学校の姿勢を感じました。
アンケート	車いすでシュートをしたいという希望が子ども達から出たので、プログラムを変更して全員車いすに乗ってシュートをする体験をした。子ども達も、先生達も共に体験し大いに楽しんだように見えました。
20) 開 催 日	12月13日
開 催 場 所	町田市立山崎中学校
住 所	町田市山崎町1445
電 話	042-793-1021
参 加 人 数	337名 (全学年9クラス)
ファシリテーター	高橋剛志
講 師	松井昭二、石井康二
時 間	07:50 会場集合 08:50 開始 11:50 終了 12:50 撤収
反 応	
特 記 事 項	
アンケート	あり 座学とは違い実際に体験したり、生の声を聞いたりできたので心の奥まで届く授業になったと思います。今あるもの、今ある幸せについても考えることが出来とても有意義でした。
21) 開 催 日	12月16日
開 催 場 所	大阪府PTA協議会
住 所	東大阪市衣摺5-8-51 (東大阪市立長瀬西小学校体育館)
電 話	090-3628-5055
参 加 人 数	100名 (子供から大人)
ファシリテーター	諸隈有一
講 師	吉川弘一、北間優衣
時 間	13:00 会場集合 14:00 開始 16:00 終了 17:00 撤収
反 応	
特 記 事 項	参加者は、大人も子どもも積極的で、人権や学校訪問事業からの波及効果でこの事業に繋がりました。

(別紙1)

アンケート なし

22) 開催日 2月6日
開催場所 品川区立御殿山小学校
住所 東京都品川区北品川5-2-6
電話 03-3441-0814
参加人数 237名
ファシリテーター 諸隈有一
講師 高橋剛志、石井康二
時間 07:50 会場集合
08:50 開始
10:50 終了
11:50 撤収

反応
特記事項
アンケート

23) 開催日 2月8日
開催場所 町田市立小山ヶ丘小学校7
住所 東京都町田市小山ヶ丘5-37
電話 042-770-6258
参加人数 135名 (6学年4クラス)
ファシリテーター
講師
時間 07:30 会場集合
08:30 開始
10:30 終了
11:30 撤収

反応
特記事項
アンケート

(別紙 1)

3 事業の実施状況表

事業予定	上半期							下半期					
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
障がい者スポーツ体験事業													
教育委員会等への案内資料送付	←-----→							←-----→					
事業展開	←-----→							←-----→					
東京								←-----→				←-----→	
埼玉			←-----→							←-----→			
千葉			←-----→					←-----→					
神奈川													
大阪			←-----→					←-----→					
京都			←-----→										
その他	←-----→						←-----→			←-----→			
アンケート集計	←-----→							←-----→					
報告書の作成											←-----→	←-----→	
納品											←-----→	←-----→	
ホームページ・Facebook掲載	←-----→							←-----→					
アンケート策定及び評価			←-----→								←-----→	←-----→	

(予定) ←-----→
 (実績) ←-----→

(別紙 1)

進捗状況写真

1) 6月7日 ノートルダム女学院中学校



2) 6月8日 羽曳野市立白鳥小学校



(別紙 1)

3) 6月9日 河内長野市立天野小学校



4) 6月12日 柏市立第八小学校



(別紙 1)

5) 6月14日 柏市立西原小学校



6) 7月10日 堺市鳳中学校



(別紙 1)

7) 7月17日 大和市立大和小学校



8) 7月29日 池田市イベント (池田市五月山体育館)



(別紙 1)

9) 9月1日 京都車いすバスケットボール体験・交流会 (上賀茂小学校)



10) 9月14日 日の出町立平井小学校



(別紙 1)

1 1) 10 月 02 日 練馬区練馬小学校



1 2) 10 月 19 日 柏市立柏第五小学校



(別紙 1)

1.3) 10月29日 品川区立中延小学校



4) 11月06日 堺市立登美丘中学校



(別紙 1)

1 5) 11 月 09 日 江戸川区立篠崎第二中学校



1 6) 11 月 13 日 柏市立柏第三小学校



(別紙 1)

1 7) 11 月 16 日 貝塚市立第一中学校



1 8) 12 月 02 日 大分県別府市イベント



高校生ら80人が 車いすバスケット体験

別府市で講座

NPO法人パラキャン(千葉県柏市)は2日、別府市身体障害者福祉センターで、車いすバスケットボールの体験講座を開いた。同法人は、障害者スポーツを通じた子どもたちの教育活動に取り組んでおり、全国で講座を実施している。

別府市内の小学生や高校生約80人が参加。同法人の講師や、車いすバスケットボールチーム「別府パシフ

車いすの操作のこつやルールを学び、車いすバスケットに挑戦。別府市の市身体障害者福祉センター



ニッククラブ」の選手らが指導。参加者は車いすの操作のこつやルールを学び、試合に挑戦した。別府鶴見

公益財団法人JKAの補助事業。

丘高校2年の高橋大地さん(16)は「車いすの動かし方やシュートなどの感覚が難しそうだと思っていたが、実際にやってみると楽しくプレーできた」と話していた。

体験講座は

(別紙 1)

1 9) 12月11日 目黒区菅刈小学校



2 0) 12月13日 町田市立山崎中学校



(別紙 1)

2 1) 12月16日 大阪府PTA協議会



2 2) 2月6日 品川区御殿山小学校



(別紙 1)

23) 2月8日 町田市立小山ヶ丘小学校



(別紙1)

<参加者意見・感想等の分析と評価>

1. 学校・主催者からの評価 (アンケート調査結果)

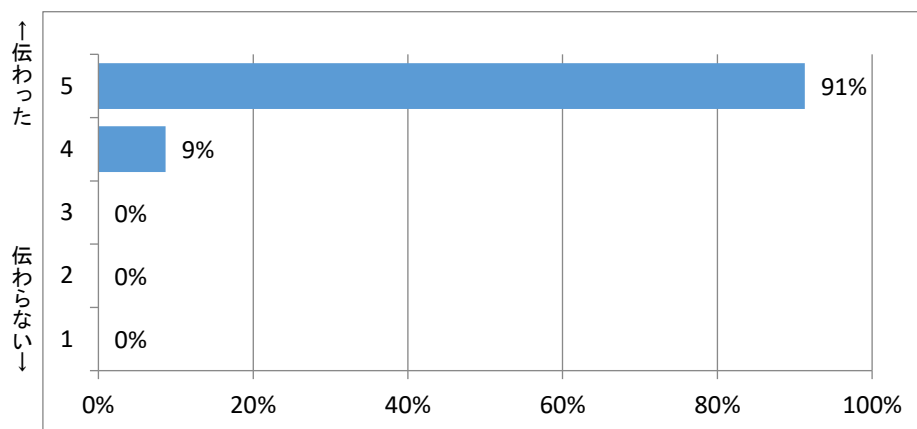
多様性の理解	113/115
共存共栄	109/115
工夫や努力	108/115
目標や夢	112/115
パラキャンの訪問授業を体験したいか	23/23

評価数は、点数×回答件数の総計で行いました。回答件数数が23枚なので、最高点の5点が付けば、最大115点になり、それが分母になります。

以下アンケート設問 (23校実施中23校より回答)

1. 児童・生徒に伝わったと思いますか？

①多様性の理解 (色々な人がいて初めて社会)



	←伝わらない			伝わった→	
	1	2	3	4	5
多様性の理解	0	0	0	2	21

<例>

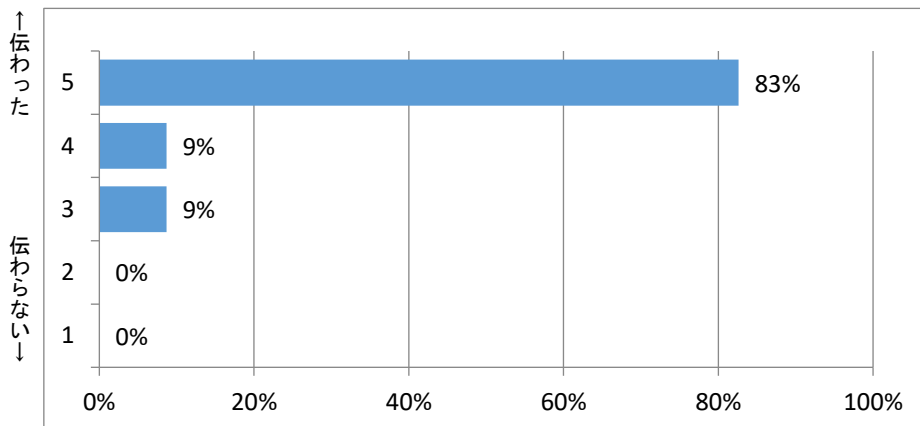
4点×2件=8点

5点×21件=105点

合計点=8+105=113点 この数値が満足度の分子になります (以下同様)

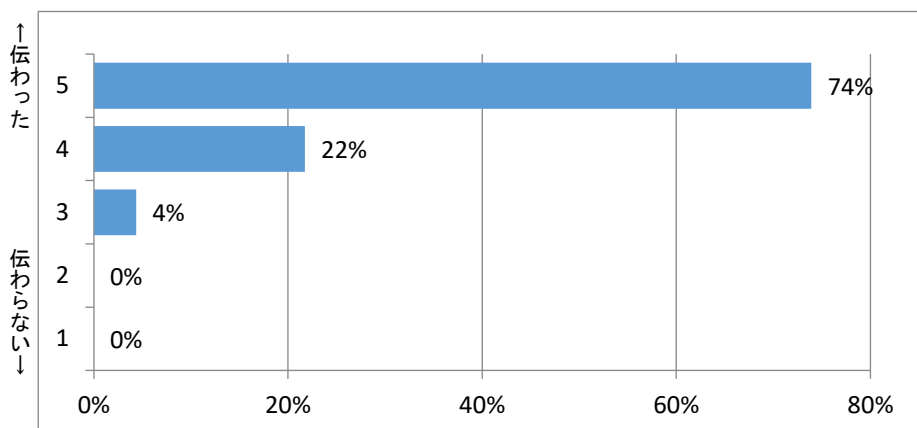
(別紙 1)

② 共存共栄 (助け合い協力・強調する)



	←伝わらない			伝わった→	
	1	2	3	4	5
共存共栄	0	0	2	2	19

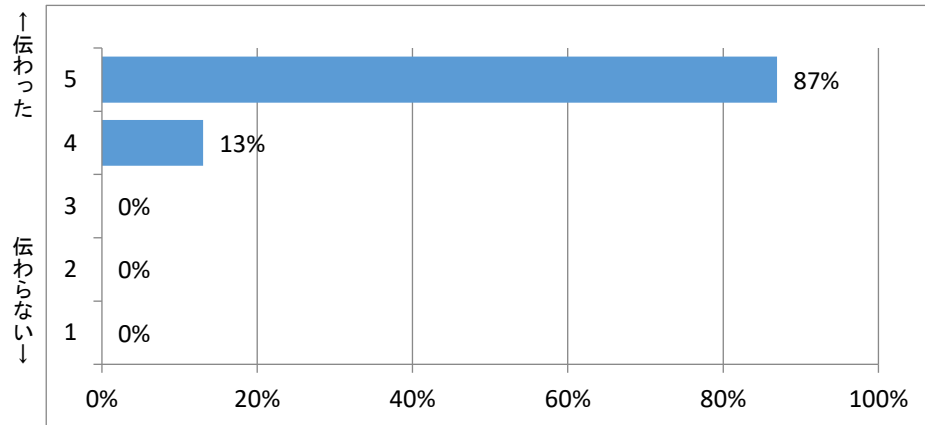
③ 工夫と努力 (ちょっとした工夫や努力で可能性が広がる)



	←伝わらない			伝わった→	
	1	2	3	4	5
工夫と努力	0	0	1	5	17

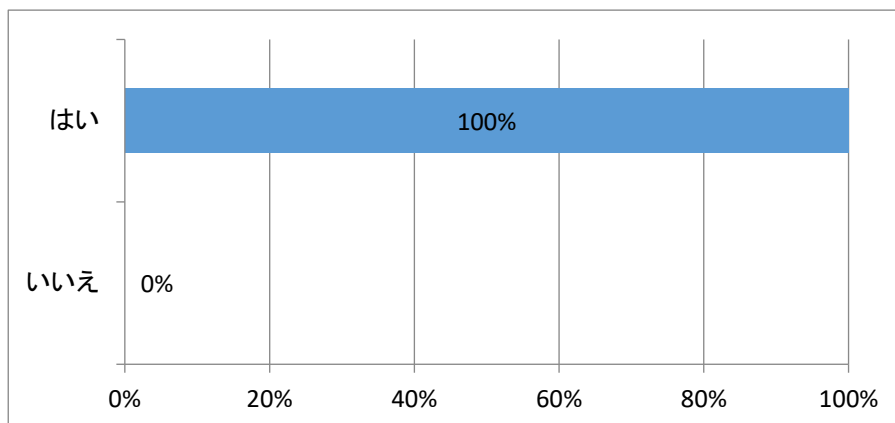
(別紙1)

④目標や夢 (可能性に気づき目標や夢を持つ)



	←伝わらない			伝わった→	
	1	2	3	4	5
目標や夢	0	0	0	3	20

2. また、パラキャンの訪問授業を体験したいですか？



いいえ	はい
0	23

(別紙1)

【はいの理由】

- パラリンピックを通して、自分や社会について考える機会を持てたことは、大きいと思います。
- 全員参加でき、車いすスポーツの仕組み、どんな人でも平等に参加できる等、大切なことを学ぶことができたため。
- 障害をもった方々から実際にお話をきくことで、子どもたちの心にひびき、夢や目標をもってくれるのではないかと思うからです。全員、体験できてとてもありがたかったです。
- 車いすスポーツをされている方々からお話を聞いたり、実際に体験したりすることで、可能性に気づいたり興味を持てたりできると思うからです。いろいろな考えを持つことができると思いました。
- 子どもたちの生活の中のことに照らし合わせて下さり、工夫や努力で可能性が広がることや助け合い、協力が必要だということがよく伝わっていた。
- 子どもたちが車いすやパラスポーツと触れ合う機会は少なくとも貴重な体験だった。パラスポーツに関心をもつきっかけになると同時に、障がいをもつ人々と自分たちが同じであると考えきっかけにもなると思った。
- 実体験を持って考える機会はなかなかないので、すすんで考える良い機会になった。
- 不自由さを知ると同時に、その環境の中で工夫して生活したり、目標を持って努力することができたりすることを知り、勇気ももらっていた。また、フランクな姿勢で接して頂けたことでより距離がちぢまり、障害を持っている方を身近に感じることもできた。だから、同じように生きる者として、このような機会がとても大切だと思った。今後も続けてほしい。
- 特別支援の子どもたちには1. ①～④理解までは難しいので何度でも機会があったらお話を聞き体験をさせて頂きたい。
- 子どもたちがすごく興味を持ちながらも、疑問に思ったことを素直に質問できていたし、勉強にもなったと思います。
- 障害者理解教育は授業で行っているが、調べ学習が中心となっているので、体験を通して学ぶことはとても意味があると感じた。
- 子どもたちの目が生き生きとしていました。前向きな姿勢で様々な活動に取り組めたと思います。こういった機会を今後も数多く設けてあげたいです。
- 「ちがいを理解し、認め合うことの大切さを学ばせてもらった。中学生に必要な“気づき”だと思います。障がいがあるとなかろうと、一人の人間として何が出来るのか、どのような可能性があるのかを教えて頂きました。
- 中学生の今ぐらいの時期に、大切なこと、学んでほしい、感じてほしいこと全てが凝縮された内容でした。いくらビデオで見ても、先生からの話を聞いても伝えられないことがあるので、その中で実際に来ていただけるととてもありがたいです。
- 車いすだけではなく障がい者への偏見がなくなり、勉強より大切な「どう生きていくか」それは自分の心がけ次第と学べたからです。

(別紙1)

○辛いことを乗り越えて誰にでもスポーツを楽しめる事や夢や希望をもつことについて
交流と体験を通して学ぶことができたと思うからです。

3. その他、感想や今後の要望、ご意見をお聞かせください。

○子どもたちのために、今後も活動をしていただけるととてもうれしいです。ありがとうございました。

○パラキャンの意味はこれからの学校生活にとっても有効で子供たちの中でも合言葉になると思う。授業の流れがスムーズで、とてもわかりやすかった。

○何事にも自分のペース、自分のスタイルがあるようにいろいろな角度からバスケを見ることができ、本当にいい瞬間でした。またよろしくお願いします。

○障害者=大変、自分たちより弱いといった考え方を子ども達は持ちがちだが、車いすバスケ選手の動きを見たり、お話を聞いたりする中でその考え方が変化していきました。又、「できない事を教えるより、できる事を教えよう」という言葉も印象に残っていました。全員、車いす体験ができたのもよかったです。時間的に可能なら、バスケットボールを使ったりレーが体験できると良かったです。本当にありがとうございました。できるだけ多くの競技があれば見てみたい。

○生徒だけでなく教師も障がいについて考えることができた2時間でした。障がいのスポーツを体験することで、普段サッカーやバスケでは感じる事のできない事のかんじてもらえたと思うので、とても良い授業だったと思います。ありがとうございました。

○心が豊かになる授業でした。心に響く言葉を沢山いただき、今までに自分がとった言動が認められたような気がして涙が出そうになりました。「失敗を恐れない」「自分で制限をかけない」「言葉で伝える」「できる事を増やす」前向きになれました。ありがとうございました。

○興味を持つことが考えるキッカケになると思います。今日の講義+体験で生徒たちは何か大切なことを得ることができた、プラス、町で(日常生活の中で)気づける力もつけられたのではないかと思います。私たち教員も勉強になることばかりでした。貴重な体験ありがとうございました。

今後も継続してほしいと思います。多くの子ども達がこの体験をできる事を願っています。

○車いすバスケについてとても楽しくわかりやすく教えていただきありがとうございました。色々な人がいて一人一人がかけがえのない存在であることチームであることの話はとても心に残しました。教室にもどってから真剣に話を聞いていました。

○なのはな学級への配慮をいろいろとして下さりありがとうございました。子ども達とても喜んでいました。

もう少し体験の時間を減らして講師の方の話を聞きたい。

(別紙 1)

2. 分析

多様性理解 113/115

98.26%が多様性理解に役立ったと考えていると分析しました。障がい者を特別視することが多いと思うが、姿形は、人間全員が違うのであり、人と違うことは、「当然」であり且つ「自分らしさ」であることが理解できることが大切だと考えました。

共存共栄 109/115

94.78%が役立ったと回答しています。多様性を理解できなければ、お互いを補完しあう大切さ「共存共栄」に結び付けられないと考える。多様性理解の上に成り立つ理論が「助け合い」であり、そこから「共存共栄」が生まれると考えます。

工夫や努力 108/115

93.91%が、この事業の中に「工夫や努力」の大切さが含まれていると考えたと分析しました。競技ルールや用具の中にある工夫やそれを生み出すための過程(努力)を実際の物として受け止めたと考えた。より高いところを目指す、より早く、より強く、を目指すには工夫と努力が必須であることを、参加者がプログラムの中から読み取ったと言えます。

夢や目標 112/115

97.39% 夢や希望を持つ大切さが伝わったと回答しています。輝く人となるには、夢や目標がありそれに向かっていることが大切だと考えます。障がいの有無に関わらず、ひたむきに努力する姿は美しく、上手く出来るかどうかは問題ではないことを感じてもらえた結果だと感じます。

3. 結論

この事業の直接的な目的は、『多用性と自分の可能性に気付く授業を届ける』ことでした。全ての人が不完全だからこそ、他との違いが自分の強みになり協力・協調・競争・自助努力でより大きな高い目標を目指すことを知ることができます。子ども達が授業を受け、先生や保護者も参加し、子ども達が変化の基となり地域を変えていくことで最終的な目標の『ユニバーサル社会』への移行と繋がると考えています。

最終的な目標が『ユニバーサル社会の実現』であり、現状は、少しずつ地域を改革しているところです。例えば、この事業がきっかけで、あの児童殺傷事件の有った大阪池田市で『ユニバーサルスポーツ』という事業を2年間開催しました。2019年度は、体育館の改修で実施できませんが、2020年から継続して行わせていただく予定です。

この事業がきっかけで。スポーツを始めた子ども達も沢山います。草加市と堺市で、私達の講師や仲間が中心になって障がい者スポーツ教室を行っています。今後は、もっと地域とつながりを強め、社会福祉協議会やスポーツ振興課などと協働して事業展開をしていきたい

(別紙1)

と考えています。このような事業は、保護者も教員も受けたことがないため、平成31年度は教員研修を行い事業が一過性のイベントで終わらせないための展開を試みていきます。

●参加生徒の感想より

中学生

- ＊車いすの競技をする事は、体力が消耗するものだとわかりました。けれど楽しい事もわかりました。
- ＊片足が事故で失ってしまったら自分だったらショックで立ち直ることが出来ないと思います。けれど皆さん明るくて、積極的に素晴らしいと思いました。
- ＊ルールを守らない大人になってはいけない事、あと無理に周り合わせない事などを教えてもらいました。
- ＊今ある現実に対して、ネガティブに感じてしまう事が多いですが、この体験で人は考え方によって苦にも楽にも変えられる。という事を学びました。これから自分も考え方を改めて、今ある現実とまっすぐ向き合おうと思いました。
- ＊障がい者だから出来ないじゃなくて人間誰でも可能性は無限にある事を知りました。また、助け合いや諦めない事が大事という事を深く学びました。
- ＊足がない事、手の自由が利かない事、何も気になることはありませんでした。「すごい」「かっこいい」純粋にそう感じました。得意、不得意は誰にでもある。障がい者も健常者も本当にその通りだと思いました。「障がい」というのをマイナスにとらえていなくて自分ができる事から考えて、できない事は隠さず周りの人に助けをもらうという真逆のことを考えていて勉強になりました。
- ＊障害を持っているからこそ楽しく感じるスポーツに出会えた。障がいを自分でどのように感じるか、そこから乗り越える気持ちは自分の人生をどのように変えるかによるものだと思います。
- ＊ラグビー、バスケットボール、サッカーを車いすや杖を使ってプレーすることが出来るという事を初めて知りました。今回は沢山の事を学び、経験することが出来ました。2020パラリンピックが楽しみになりました。
- ＊初めて生で見た車いすバスケットはとても楽しく、試合も是非見てみたいと思いました。
- ＊障害のある人もみんな同じ人間なのだから誰もが楽しく過ごせるような社会になるよう今からでも何かできる事はないかなと考えていきたいと思いました。
- ＊もっと世の中に広めるべきだと思う。オリンピックと同じくらいパラリンピックをみんなに知ってほしいと思った。すごく興味を持ってよかった。
- ＊健常者も障がい者も何も変わらない人間で「障がい者だから傷つけていい」とか「障がい者だから～してはいけない」とかおかしいと改めて思った。片足がない、足が動かない、手が動かない、目が見えないとかの違いで差別してはいけないと分かった。自分のしている事で知らない内に人を困らせてないかよく注意しようと思った。自分が思っているより障がい者は強いと分かった。これからは色々な事に興味を持とうと思った。

小学生

- ＊私はミニバスケットボール部に入っていてバスケの事は知っていましたが、車いすに乗ると、1つ1つの動きがとても難しくて驚きました。貴重な体験が出来てとても良かったです。
- ＊車いす競技ではタイヤの動かし方が難しかったですが、みんなと協力して楽しくできま

(別紙1)

した。これからは難しい事でもあきらめずにやりたいです。

- *車いすバスケットをやって普通のバスケットより大変だったから日常生活はもっと大変なんだとわかりました。道で困っている車いすの人がいたら助けてあげよう」と思いました。
- *体験を通して感じたことは、体が不自由な方でも元気にスポーツを志、他人との交流ができる事です。人それぞれの個性を生かして運動するのはとてもいい事だと思ひ、そのような考えが全世界に広まればいいなと思ひました。
- *体が不自由でも楽しく笑顔でやっていてとても不自由には見えなかったです。「失敗することは楽しい。」と聞き、びっくりしました。難しい事に挑戦して失敗すると次はこうすれば良くなると考えられるそうです。私も失敗を嫌がらずに挑戦していきたいと思ひました。
- *自分が相手の気持ちになって素早く行動したい。一度は絶望してもまた、新しい道があるから諦めない。と教えてくれました。
- *今回車いすを体験してとても不便に感じたので、これからは車いすに乗っている人を見かけたら自分の出来る範囲でしっかり助けてあげたいと思ひます。
- *他の人よりつらい経験をしたのにもかかわらず、人に勇気と元気を与えていて、人々はみな平等（パラレル）という事が改めてわかりました。
- *「できない事を数えるより、できる事をかぞえよう」この言葉は、障がいを持ってスポーツをしている人が常に考えているものです。例えば、足が動かない、だからあれもできない。これもできない。と、考えていると何も出来ない人生を過ごしてしまいます。しかし、足が動かないでも手は動くそう考えていけば人生は無駄にならない。と学ぶことが出来ました。

(別紙 1)

なお、成果物一覧は(別添 2)のとおり、配布先一覧は(別添 3)のとおり

4 事業実施に関して特許権、実用新案権等を申請又は取得したときはその内容

無し

5 今後予想される効果

民主主義とは、少数の意見にも耳を傾け多様性を尊重し、皆で答えを導き出すものだと考えます。今までの、『多数決=民主主義』と考え違をしていた時代が過ぎようとしています。『多様性を活力とした協働』と東京大学の卒業式で総長が告辞に盛り込んでいらっしゃった言葉は、まさにこれからの社会の在るべき姿を現しているものと考えます。この事業が目指すユニバーサル社会は、それを通過してやっとな実現が見込まれるのではないかと考えます。

これからは、パラリンピックを始めとするパラスポーツは、国際パラリンピック委員会が提唱しているように、『社会変革』の道具として活用されるというレベルに変わっていきます。教育現場においても『障がい者』や『パラスポーツ』を大きく取り入れ、様々な人の協力の上に地域社会と教育が成り立つように国家的な動きが始まると考えます。

6 本事業により作成した印刷物(報告書)

報告書

なお、印刷物の配布先一覧は(別添 2)のとおり

7 その他報告事項

(1) 審査・評価委員コメント対応状況

当事業の最終的な達成目標を見据えたうえで、当該年度の具体的な達成目標を示し、どのように達成するのか、現在はどのような段階にあるのかを具体的に示してください。

とのご意見を頂きました。

私達の目標とする『ユニバーサル社会の実現』とは、誰もがもっと選択肢の有る生活が出来ることを意味します。自分の行きたいときに行きたいところへ行ける、やりたいと思ったことが、障がいを理由に妨げられない社会です。

それを達成するには、どうしても『多様性理解』ということと『多様性を活力とする社会』が必要になってくると考えます。

この事業で、子ども達に提供できるのは、『あなたを含めたすべての人が大切に個人的(違いの有る)人間だから、協働することでより大きな成功が得られる。』ということを徹底して教えていくことだと考えます。

(別紙1)

2020年のパラリンピックを迎えるにあたり、やっとパラリンピアンをアスリートとして認識するようになっております。これはまさに、多様性を理解するところの入口に来ているのだと確信しております。

今後の展開は、

- ① 地域の体育館や教育委員会との連携で障がいの有る人がスポーツの出来る環境を整える一助となる。
- ② 障がい児のスポーツ教室などのモデルケースを作り上げ、それを他地域でも活用できるように発信する。
- ③ 大学との連携を考える。
- ④ 企業との連携 障がい者の意見の反映された物品の政策やそれらのリサーチも兼ねて、障がい者が社会資源として役立つことを実地で示していく機会を増やす。

等を考えています。

(2) 継続事業の成果と意義

当初、全くパラリンピックという言葉を知らなかった国民の99%がパラリンピックという言葉を知るようになりました。しかし、多くの人が単なる障がい者のスポーツイベントという認識しかしていません。この事業を継続的に行っている地域では、障がい者が体育館を使えるようになったり、スポーツ教室を行ったりしています。この事業が継続して行われることで、社会変革を起こせることの証明だと確信します。

(3) その他

NP0法人パラキャン評価委員会の評価

2020年のオリンピック・パラリンピックを通して、大人も子供も全世界の民族的多様性を視ることになります。そして、それは、多様性が好意的に理解される最大のチャンスが来ると言っても過言ではないのです。

特に、パラリンピアンによって自分自身の工夫と努力、他者との相互補完と協働により多くのことを成し遂げ、人々を感動させることが示されると推察されます。

今、ヨーロッパ諸国や一部アジア地域では『長寿・人口減少社会』問題の中であり、日本はそのトップランナーです。長寿・人口減少社会は、年齢の違いを含めた様々な多様性と協働によってしか支えられない社会です。日本が、『多様性を活力とした協働』社会をどのように構築していくかを世界中が注目しています。

2020年のパラリンピックは、多様性と協働に向けた日本の社会的努力を試される機会でもあります。本事業は、社会改革の一部を確実に担う事業になるだろうし、そのことを強く期待しています。

記 評価委員 坂田道夫